

奥多摩の森



奥多摩

《第78号》

令和7(2025)年

7月15日 発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2022.8.19

レンゲショウマ

夏の暑い時期になんとも可憐な花をつけるレンゲショウマ。その名を聞くと真っ先に思い浮かぶのはやはり東京では御岳山でしょう。愛らしいピンク系薄紫の花がうつむき加減に咲いているのを見ると清々しい気分になり、夏の暑さも忘れるほど。日本の固有植物で絶滅危惧種に登録されている地域もある。御岳登山鉄道が「御岳山レンゲショウマまつり」を8月に毎年開催している。キンボウゲ科、レンゲショウマ属の多年草。花言葉は「伝統美」。

行って来たあよ

No. 3 4月21日(月)開催

大丹波 新緑と花と歴史の里を歩こう！

～ 秘境の古民家グルメツアー ～

大丹波の春の花々と新緑、歴史、そして地元の味を満喫する散策イベントに参加しました。じつは、その前日も友の会のイベントで鋸山から大岳山に登頂。その晩は御岳山神社鳥居近くの宿坊で一晩ゆっくり休んで、集合場所の川井駅へ歩いてむかいました。約6キロの道のりを友の会ガイドさんと一緒に歩きながら、奥多摩に訪れた春の息吹を感じる散策となりました。



朝の清々しい空気のなか、鳥のさえずりが耳に心地よく響く熊沢林道をのんびり歩き、ヤマブキ、アケビ、ウラシマソウ、ヒメコウゾ、キブシ、ミツバツツジ、タラの芽、山椒、マムシグサ、ジロボウエンゴサク、ボケ、ヒメレンゲ、ヒメツルソバ（ヒマラヤ原産）、足元にも、マルバスミレ、イワタバコ、ゼンマイ、キランソウ（地獄の釜の蓋）、マンリョウ、ニリンソウなど、そこかしこに春の植物を発見しました。登山なら呼吸を整え水分を補給し、草花を楽しめるほどの余裕がまだない私も、存分に自然観察を楽しみました。



輪光院では、江戸時代の「箱訴事件」とその供養碑について学び、静かな境内で当時の人々の思いに心を寄せました。

築150年の古民家レストラン「ちわき」にたどり着くと、炊きたての釜めしとだんご汁の香りが。その日にいただいた

名物「鮎のかまどご飯」(2,400円)は、香ばしい鮎とごぼう、ご飯の調和が絶妙でした。大丹波川の澄み切ったせせらぎや木漏れ日のきらめきも、私たちの心を和ませてくれて、豊かな山里の恵みを堪能しました。

帰りは近くのバス停からバスで川井駅へ。自然、歴史、そして郷土料理、五感で楽しむ春の散策でした。

友の会会員 阿部 睦美



No. 4 5月7日(水)開催

天目山(1576m)

シロヤシオの名所を訪ねる

十数年前初めて青梅線奥多摩行きに乗った。切り立った山々をかいぐりトンネルを抜けるごとに開ける秘境感にゾクとした。幼い娘とともに車窓にべたりと額をつけるようにその景色に見入った。

本日は初めての日原、狭い山林道を走るバスの中からあの時と同じような気持ちで切り立った山々の風景に見入る。ああとうとうこんな奥まで来たんだ。



私が山に登る時の楽しみは何と言っても山頂からの眺望。岩場や片側崖の狭いスリルある登山道を抜けて頂上

を制した時の征服感は感無量だ。本日の天目山(ミツドック)山頂では奥多摩の山々をぐるりと見渡せる眺望。これから制覇したい山々を一望出来て私の野心をかき立てた。ガイドさんの的確な案内で日原方面の山に一步踏み出せたことに感謝したい。



楽しみのもう一つは四季折々の花との出会い。ガイドさんの植物のお話には奥多摩の自然に対する熱い情を感じる。翌年はさらにたくさんの花が咲くよう願わずにはいられない。植林の伐採や登山道の整備のお話も伺い、私達が安全快適に登山出来るのもこういった

活動のおかげとあらためて感じた。

本日出会った魅力的な花を二つご紹介。白い花が集まって大輪をなすように咲くオオカメノキは華やかで新緑の中でひととき映える。もう一つはツクバネウツギ、やや黄味がかった白い清楚な花が木々の中で密やかに咲く。期待していた山頂付近のシロヤシオは一部を除きまだ蕾で見頃まであと1～2週間とのこと。満開になると背後の風景が見えないほど真っ白になるのだそう。これは1週間後に再び来るしかないか。



友の会会員 宮澤 聡子

季節のおすすめイベント

No. 12 8月27日(水)開催

三頭山(1531m)

緑滴る三頭大滝から

三頭山は多摩川と秋川を挟む奥多摩尾根の分水嶺に位置する1531mの山で、その魅力はブナやクリ等の天然の森にある。

豊かな森は動植物や野鳥を育て秋川の源流となっている。江戸時代に幕府がこの地を御林山として保護し樹木の伐採を禁止したことが今日に生きているわけである。東京都は1990年にこの一帯を「檜原都民の森」として一般に開放した。森林館や工芸館を始め様々な施設を利用して体験活動が出来るのも大きな魅力となっている。



トチの太木

駐車場から森林館に向かって坂道を進み、木製の階段を登った左手にある。沢沿いの湿った所を好むこの木は奥多摩を代表する幹回り6mを超える巨木で見応えがある

2021.8.22

森林館から大滝に進む「大滝の路」は東京都で最初の森林セラピーロードに認定された。ウッドチップたっぷりの緩やかなトレイルは足にやさしく周囲の景色と相まって心安らぐ。

大滝からは沢に沿って本格的な登山となる。夏の時期には格好のルートに違いない。

この沢に目を留めてほしい生活跡がある。登山当日はこの遺跡を確認し厳しい労働で生きていた山人の暮らしを想像してはどうでしょうか。

三頭山は山岳展望にも恵まれ、西峰山頂からの富士山や東峰からの御前山や大岳山、都心の眺めもよい。小河内村と檜原村を結ん

だ標高1100mの^{さいぐち}鞍口峠は2019年の台風で小河内側が通行止めとなり、歴史道の復活が待たれる。

ガイド 増沢 強

No. 13 8月29日(金)開催

鳩ノ巣渓谷・白丸湖畔遊歩道

古里駅から青梅街道を西に向かって暫く歩くと左折して、旧街道に入る。

湧水の大きな釜の水を左手に、少し先には見過ごしがちな滝を右手に、ここは御嶽参拝者が清めた滝、左手には最近観光施設として「沿線まるごとホテル」が開業し、地域の活性化を図ろうとした事業です。

もう少し歩くと寸庭橋、多摩川の下流は昔筏流しの土場があった所、橋を渡り直ぐ右手に下りますが、足元が悪くなるので、充分注意したいポイント、越沢と寸庭川の合流地点では、涼しげな上の滝・下の滝を楽しみ、暫くして松の木尾根に向かう登山道を登り切ると、休憩所に着き、眼下に鳩ノ巣棚澤集落を一望でき一休みし、雲仙橋に向かう。

雲仙橋を渡り左手に、いよいよ奥多摩の渓谷美が一番の場所に、大きな岩の上には水神様、下には鳩ノ巣地名由来の大きな看板がある(昔、筏流しの人夫が二羽の仲睦まじい鳩の姿を見て・・・)。



看板を過ぎると鳩ノ巣小橋の手前に喫茶・ギャラリーポップがあり、橋を渡り右手に、鳩ノ巣渓谷の岩畳をしばし楽しみながら白丸ダムまで渓谷美を堪能、ダムへ、堰堤を渡り登り切ると「エコっと白丸」(再生可能エネルギーPRの施設として)に、道路を挟んで、魚道もあり。人気の箇所でもある。ダムの右岸を更に約1km、木陰の外を眺めていると、白丸湖でアドベンチャーを楽しんでいるカヌーの姿が観られるかも知れません。

いよいよ最終段階、数馬峡橋が見えてくる。数馬峡橋は上流下流とも景色は抜群です。川合玉堂が青年時代に魅せられた場所。玉堂は数々の日本画を描き、青梅市御嶽には玉堂美術館があり、いかにこの地の自然を愛したかが分かる。白丸駅も近い。駅の登り口に地元野菜を使った味噌やピクルスが美味しい(手造り工房・四季の家)お土産にどうぞ。では夏季の涼風を楽しんで行きましょう。

ガイド 宇津木 隆

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介 ～ 七期生 ～

質問事項

- ①氏名 ②現役時代の仕事または今現在の仕事
- ③出身地 ④現住所 ⑤趣味、特技 ⑥ガイドになったきっかけは？ ⑦今までガイドをして嬉しかったこと良かったと思ったこと
- ⑧ ガイドをする時いつも心がけていること

①木下和彦（きのしたかずひこ）

- ②丹波山村役場
- ③生まれも育ちも丹波山村
- ④山梨県丹波山村
- ⑤何にでも興味を持つが、何も特技には結びつかない。
- ⑥奥多摩観光協会のガイドは何でしていないの？との一言から
- ⑦「一緒に写真撮って下さい～」の笑顔
- ⑧参加者自らが発見できるように見守ること

①甲田世津代（こうだせつよ）

- ②主婦（元パート薬剤師）
- ③兵庫県神戸市
- ④東京都調布市
- ⑤山登り、麻雀、ヨガ
- ⑥時間が出来て、大好きな山に関わる事をやりたいと思った
- ⑦色々なお客様と出会って一緒に山登りの楽しさ（達成感、景色、山座同定、植物観察）を共有できる事
- ⑧安全第一で 注意喚起しながら、お客様の体調に気を配って歩く

① ごとう わかこ

- ②公務員
- ③北の方
- ④東京都奥多摩町
- ⑤植物、動物、地層観察
- ⑥友の会のガイドの皆さんに憧れて
- ⑦これからやるので、どんなことがあるか楽しみです
- ⑧感動感激の分かち合い

第 48 回奥多摩納涼花火大会

毎年恒例の奥多摩納涼花火大会が 8 月 9 日（土）に開催されます。

今年は町政施行 70 周年を記念して例年以上の賑わいになる予定です。有料席の予約も始まっています。ぜひご利用ください。



川遊びには注意しましょう

夏になると、涼を求めて多くの観光客が奥多摩を訪れます。奥多摩町内には公共交通機関を利用してアクセスしやすい渓谷があり、人気のスポットとして親しまれています。特に奥多摩駅からほど近い氷川渓谷は週末や夏休みには多くの人々でにぎわいます。

こうした渓谷では、清流のせせらぎに耳を傾けながら木陰で涼むことや、水辺に足を浸して、自然の心地よさを満喫できます。その一方で、町内を流れる多摩川においては、非常に流れが速い場所もあり、遊泳は禁止とされています。

実際に毎年水難事故が発生し、昨年は2名の外国人観光客の方が命を落とすという痛ましい出来事がありました。

さらに、直火でのバーベキューやゴミの放置、大声で騒ぐといったマナー違反も後を絶たず、地域住民とのトラブルにつながる事例も少なくありません。

このような事故やトラブルを未然に防ぐためにも、訪れる方一人ひとりがルールを守り、安全に配慮した行動を心がけていただくことが重要です。

次号発行予定：2025 年 10 月 15 日

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。



発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川 210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会